

【小豆島／オリーブストーリー】

## 4COLORS

オリーブからはじまるファースト小豆島



日本初のオリーブ栽培発祥地として知られる小豆島では、人も、暮らしも、オリーブとともに季節がめぐります。

春、夏、秋、冬…、オリーブに導かれて、

その季節<sup>とき</sup>ならではの小豆島に会いに行きませんか。

島は常に変化しているから。

いつだって、訪れたときがあなたにとってのファースト小豆島。

めぐる季節の中で、とっておきのオリーブの島をご案内します。

### 【コースの考え方】

#### ●「オリーブの島」という強みを「見える化（具体化）」する

「日本初のオリーブ栽培発祥地」というブランドイメージから一步踏み込んで、小豆島ならではのオリーブが根付いた警官や地元料理、生活文化等をリアルに体感できるメニューを開発。「イメージ」としてのオリーブの島から「触れられる」オリーブの島として、潜在資源を“見える化（具体化）”する。

#### ●「四季」を切り口に、島のコンテンツを再編集する

四季ごとに変化するオリーブを軸に、その季節ならではの小豆島の楽しみ方を組み合わせることで、島＝夏のイメージの強い小豆島から、春・夏・秋・冬と通年で楽しめる島であることをアピールする。

#### ●リピートできる島へ

小豆島は瀬戸内海で淡路島に次いで2番目に大きな島。観光資源が島内全域に分散しており、一度で回るには規模が大きすぎる、色々ありすぎてイメージが散漫等の課題があった。そこで、季節ごとに楽しみ方のインデックスを設け、一度では回りきれないからこそ、「リピートできる島」として訴求する（例／沖縄）

### 【コース】

※ 四季をテーマとしたオリーブストーリーをつくるにあたり、今年度はオリーブが収穫期を迎える「秋」をテーマにモデルケースとして制作する。

【ストーリー】

## 「オリーブからはじまるファースト小豆島（秋編）」

---

<1日目> まずは小豆島へ上陸、オリーブづくしな1日。

---

### ●SCENE1/イントロダクション（来島動機）

仕事もプライベートも充実しているけれど、なんとなく毎日忙しくて心にゆとりがない。そんな日常を離れて、たまには気の合う人を誘って、のんびり島旅はどうだろう？

きっかけをくれたのは、友達が SNS にアップしていた一枚の写真。青い空とやさしいオリーブの森が写っていて、生まれてはじめてオリーブの収穫体験をしたと楽しそうなメッセージが添えられていた。オリーブが秋に実るってことも、そのときはじめて知った。今年は私も秋の小豆島で、オリーブの収穫デビューしてみますか。

### ●SCENE2/午前・・・船の旅

高松港から小豆島へはフェリーで1時間。天気が良いので甲板に出てみる。船の白い軌跡の向こうで、市街地のビル群がだんだん小さくなっていく。日常のわずらわしさは”あっち”へ置いていこう。キラキラ輝く瀬戸内海、ゆっくり流れる船での時間が、島旅への期待をかき立ててくれる。

### ●SCENE3/午前・・・オリーブの収穫体験

小豆島に着くと、まずレンタカーショップへ。島といっても小豆島は想像以上に大きい。自分のペースで小豆島を巡るなら移動手段は車が一番だ。車を借りて、いざ出発！

まずはオリーブの収穫体験をしにオリーブ公園へ。畑では、どのオリーブも濃い紫に熟れた実をたわわにつけている。サクランボのようにぷるんとまあるい実がカワイイ。その実を一つひとつ、ていねいに手で摘んでいく。頭の上でピュルルル〜っとトンビが鳴いた。風の音と、葉ずれの音、プチプチとオリーブを摘む音。そして静かに流れる時間・・・

子どもにかえって、しばし木の実採りに夢中になってみる。

### ●SCENE4/午後・・・昼食

体を動かしたあとは、オリーブの森で「アオゾランチ」といきましょう。お目当はオリーブ牛のハンバーガー。テイクアウトしたら、居心地のよさそうな場所を見つけてプチピクニック。大きな空と、やさしい海風がきもちいい。

## ●SCENE 5 / 午後・・・オリーブを体感するアクティビティ

小豆島では、オリーブを体感できるアクティビティが揃っている。一つだけでもいいし、組み合わせて自分だけのオリーブツアーをつくるのも楽しい。

### ○アクティビティ A / 小豆島で最長老のオリーブの木に会いに行く

オリーブ園で出会ったのは、約1世紀もの間、この島を見守り続けてきた小豆島最古のオリーブの原木。ゴツゴツと節くれだった樹形が歴史を感じさせる。シルバーグリーン  
のオリーブの森を歩いていると、まるで外国にいるみたい。真っ白なギリシャ風車が立つオリーブの丘からは、眼下に広がる瀬戸内海がキラキラとまぶしき輝いている。

### ○アクティビティ B / 幸せを呼ぶハート型のオリーブを探す

オリーブの木をよく見ると、ときどきハード型の葉っぱが混じっていることがある。それは幸運の印。この島ではこのハート形のオリーブの葉を見つけると幸せになれるというジンクスがあるとか。きっと島からの贈り物だね。

### ○アクティビティ C / オリーブでクラフト体験

オリーブ公園では、オリーブを使ったクラフトメニューも充実している。例えば、オリーブオイルのハンドクリームやリップクリーム、フレッシュハーブを入れた石けん……。使うたびに旅の記憶がよみがえってくる。心癒やされるハンドメイドなお土産たち。

### ○アクティビティ D / オリーブ染めの工房を訪ねる

島のオリーブの間伐材や葉を使った「オリーブ染め」。染色家・高木加奈子さんの工房を訪ねてみよう。黄色からオレンジ、ピンク、深緑とオリーブ染めは実に多彩。自然の色で描く「かがり手まり」は全て一点物。どれにしようか、迷うのも楽しい。

### ○アクティビティ E / オリーブ畑に、謎のリーゼント出現?!

オリーブ畑の真ん中に突如現れたのは、巨大なリーゼント頭のオリーブ。「瀬戸内国際芸術祭 2013」のアート作品だ。作品の前で決めポーズ。インパクト抜群の写真は早速SNSにアップしよう。オリーブの島には、遊びゴコロがいっぱい。

## ●SCENE 6 / 夜・・・宿で夕日を楽しむ

夕日が綺麗な宿があると聞いて、すこし早めにチェックインする。お部屋はもちろん、オーシャンビュー。夕暮れどきの海は、ほんの数分間の自然が織りなすドラマ。西の方からパールブルーに赤みが差して、オレンジからキラキラ輝く黄金に。やがて光は静まり、柔らかなピンクから群青へ、ゆっくりと夜の帳が降りていく。言葉もないまま、ただ海を見つめていた。

---

## <2日目> 秋（9～11月）ならではの小豆島を満喫しよう。

---

### ● SCENE 7 / 午前…紅葉をめぐる（寒霞溪の紅葉）

いつもより早起きして、朝の澄んだ空気を吸いに寒霞溪へ。そこには、燃えるような紅葉が待っていた。ロープウェイで登るもよし、トレッキングを楽しむもよし。「四方差し」からは360度パノラマのダイナミックな瀬戸内海が見渡せる。一番先端に立って大きく深呼吸。鳥になった気分で、青空にふーっと心を解き放つ。

### ● SCENE 8 / 午前…映画の世界にトリップ（湯船の水と千枚田）

小豆島に行くなら、一つだけ訪ねようとしている場所があった。それは映画「八日目の蝉」で観た棚田。虫送りのシーンがとても幻想的で、その舞台となった棚田を訪ねてみたくなったのだ。映画の主人公になったつもりで、虫送りの道をのんびり歩いてみる。初めてなのにどこか懐かしい、温もりを感じる日本の原風景。

### ● SCENE 9 / 午後…秋を食べる～棚田の新米でつくったおにぎりの味～（こまめ食堂）

秋のごちそうといえば新米。棚田で採れた米を、地元の湧き水で炊いたおにぎり定食が自慢の食堂でお昼ご飯をいただく。島の魚や野菜を使った小豆島づくしの内容に、秋の小豆島を目でもお腹でも堪能。

### ● SCENE 10 / 午後…秋ならではの小豆島の楽しみ方がいろいろ

映画やドラマ、CMなどのロケ地としても知られる小豆島。港で隣り合わせた老人が、ちょっぴり誇らしげにこんなことを教えてくれた。「映画の世界では『一筋（脚本）二抜け（映像）三芝居（演技）』と言うそうで、景色の美しさが重要なんや。」数多の監督たちを魅了したとっておきの風景を探しながら島を巡るのも、小豆島の楽しみのひとつ。澄んだ秋空のもと、自分だけのお気に入りの風景を探しに行こう。

#### ○「醬の郷」を歩いてみる

昔ながらの木桶仕込みの醤油蔵や佃煮工場が30軒余り集まる「醬の郷」。通りを歩くと醤油の香ばしい香りが漂ってくる。蔵見学したり、名物のしょうゆソフトを食べたり。美味しい匂いに誘われて、細い路地をそぞろ歩き。

#### ○天使の道で幸せ祈願

1日2回、引き潮のときだけ現れる砂の道「エンジェルロード」。手をつないで渡ったカップルは結ばれるという噂がドラマにもなったハッピースポットだ。打ち寄せられる水のきれいさが心に残る。夕日の頃に行くのもまた格別。

## ○秋の風物詩「太鼓祭り」

小豆島の秋といえば「太鼓祭り」。毎年10月10日～20日頃は、島じゅうが祭りムードに包まれる。運が良ければ法被姿で練り歩く太鼓の一団に出会えることも。島の人たちと一緒に一年の恵みに感謝して。ちょっぴり素顔の小豆島に触れられた。

## ○日本映画の聖地へ（二十四の瞳映画村）

小豆島の映画といえば、「二十四の瞳」。最後はその殿堂へ。映画に使われた木造校舎の教室で、小さな椅子に腰掛けてみる。窓の外には白い浜と青い海のコントラストがまぶしい。大石先生や子どもたちもこんな風景を見ていたのかな。

園内のカフェで一休みしながら、これまでに撮った写真を見直してみた。季節とともにうつろう自然に寄り添いながら暮らす島の人たち。その営みの美しさがここにしかない風景をつくっているのかも。シャッターの数だけ、私だけの小豆島が増えた。

## ●SCENE 11 / クロージング

あっという間の2日間。島の親切な人たちやゆっくり流れる島時間にふれて、すっかりリフレッシュ。今回まわりきれなかった場所がまだまだいっぱい。島の人が、冬には初しぼりのオリーブオイルができるから「またおいで」と言っていたし、今度はオリーブを味わいに帰ってこよう。東京からも意外と近かったし。のんびり気ままな島旅、なんだかクセになりそうだ。